

## 若手職員育成プロジェクト「生品塾」について

- 1 はじめに
- 2 生品塾について
  - (1) ねらい
    - 校内研修の一環として、本校若手職員の更なる指導力の向上を図り、資質の向上を目指す。
    - 次期ミドルリーダーとしての自覚を育てるとともに、学校の中核となるべき態度を養う。
    - 学習指導、生徒指導、部活動指導、生徒や保護者との関わり方について必要な知識を学ぶ。
    - 若手職員の日頃の悩みや不安解消に努める。
  - (2) 方法 運営委員会担当職員、並びに学年主任等経験者  
また優秀指導職員などを校内講師とする。  
受講教師は一応、採用後、15年未満職員を対象とする。
  - (3) 実施時期  
期末テスト並びに中間テスト前の部活中止期間の放課後を利用する。または長期休業中も活用する。  
時間は30分程度、資料などは講師役の先生方に一任
  - (4) 講義内容 担当の先生の得意分野など。これまでの経験談など  
【例】 「若い先生方に期待すること」  
「成功談、失敗談、武勇伝」  
「30歳頃の私は」  
「効果的な学習指導の進め方について」  
「効果のあった生徒指導について」  
「部活動から学ぶもの」  
「保護者対応の在り方について」
- 3 実施状況
  - 6月28日(火) 教務主任  
「学力向上対策～アクティブ・ラーニングについて～」
  - 6月29日(水) 生徒指導主事  
「生徒指導の在り方と部活指導」
  - 8月22日(月) 道德教育推進担当  
「道德の教科科についての動向とその準備について」
  - 10月19日(水) 教頭  
「学校行事を飛躍の契機に」
  - 11月28日(月) 2年学年主任  
「私の成功・失敗談」
- 4 今後の予定 学年主任
- 5 先生方の感想について
- 6 終わりに



## 話を聞いた先生方から

### 【いくつかの話を聞いて、感想を記入して下さい】

- それぞれの先生方がどのような実践を行っているのかや、何を心がけて指導や授業を行っているのかを教えていただいた。自分の授業や指導でも**必要なことを知る良い機会であった。**
- 先生方の体験談や経験談を聞き、とても参考になることが多かった。学年が異なり、**普段はあまり話す機会がない先生とも話せたのが良かった。**
- どのようなことを普段考えて実践しているか、目指すものは何かなど、普段、聞かないこともわかった。
- 様々な状況の時、どのような対応をすれば良いか学べた。**
- 先輩の先生方も自分と同じような悩みやトラブルがあったことを**聞くことと少し、安心できた。**また、その時の対応なども聞くことができるととても勉強になった。
- 昔の先生方の自分自身の生の話が聞けてとても良かった。**

### 【話を聞いたことが、日常、どのように生かされていますか】

- 授業構成の在り方や進め方などについて**意識して実践している。**
- 生徒指導をはじめ、**生徒との接し方に生かされている。**
- 保護者対応や教師間の連携**について生かされている。
- 先輩の先生方の指導方法や対応を**頭の中で思い起こしながら**、生徒や保護者との対応を考えることができた。
- 日常の**生徒指導や教育相談**に行かされている。
- 日頃の**あいさつなどが良くなった**かと思う。

### 【話を聞いて、その後、自分が実践したり自分が変わったりしたところを書いて下さい】

- 部活動や学級で生徒と関わる時間を多くし、**より生徒理解に努める**ようにしている。
- 授業構成を考える際に、より**生徒主体の授業になるように工夫したり**、子どもが興味を示すことができる内容を多く取り入れるようにしたりしている。
- 以前と比べて、**仕事がしやすくなった**と思う。
- 小さなことでもなるべく**メモを取り、記録して取っておく**ように心がけるようになった。
- 生徒の良さを認める機会が増えた**と思う。

### 【今年、始めた生品塾についての感想を書いて下さい。】

- 先輩の先生方から、普段、職員室での会話では聞くことのない、今までの経験や実践についての話を聞く機会になりとても良かった。
- 様々なことでとても勉強になった。**貴重な機会である。**
- 先輩の先生方が新採用だった頃のエピソードなどが話を聞いてとても印象に残っている。それぞれの先生方が生徒指導や授業実践に葛藤しながらも、**様々なアプローチで困難を乗り越えた話や方法は、やり方や方法は異なれど、根底にあるものは目の前の生徒としっかり向き合うことだと改めて実感した。**
- 事前に質問をアンケートで「こういうことで困っています」「このような生徒にはどのように対応したら良いか」など、話し合いを通して相談できる場を設けても良いかと思う。

## 講師役の先生方から

### 【若い先生方にどのようなことを伝えたいと思いましたか】

- 学校は、学習、日常生活、部活動など教育活動全体を通して生徒をより賢く、より優しく、よりたくましく育てて行く場である。この連続した日常の活動が、さらに主体的、意欲的になるよう各学校で意図的に各種の行事を企画、実施している。学校行事は学校を良い方向に変革させる絶好の機会になるということを伝えたい。
- 荒んだ心を持つ生徒や無気力な学級集団でも先生の熱い想いを本気でぶつけていけば、生徒の心は必ず動くという経験をいろいろな場面で生かしてほしい。
- 30年以上授業や日常生活、部活動で生徒と接してきたが、「うまくいったな」と思うことはわずかである。失敗の連続を繰り返し、少しずつ自信をつけてきたことなどを伝えたい。
- 教師として自信を持ち、自分らしさを発揮してほしい。
- 常に信頼関係を保ちながら、アンテナを高く張り、小さな変化を見逃さないことが大切である。積極的な生徒との関係作り
- 周囲（同僚、生徒、保護者、地域住民など）への対応の仕方や気遣いを伝えていく必要がある。

### 【実際、話をしてみてどうでしたか】

- 自分の実践や想いを若い先生方にどのように伝えようかいろいろと考えた。準備作成段階でも自分の勉強になった。
- 真面目な話を、なかなかする機会もないのでとても良かった。また、普段、思ってもなかなか言えないことが言えて良かった。
- 教育は生徒を中心に考え、大切にしていかなければならない点や、集団の中で一人一人に自信と所属感が生まれるような先生の意図的な仕掛けなどを中心に話をしたが、うまく伝わったかは疑問である。

### 【全体を通して、今年、始めた生品塾についての感想を書いて下さい。】

- 本校のように、平均年齢が30歳前半の構成の職場は今後さらに増加すると思われる。かつて自分たち50歳世代が経験し、いろいろなことにチャレンジし、悩みつまづき、そしてその失敗から少しずつ成長した、おおらかさが今の職場にはないように感じる。また、保護者や社会全体も先生の失敗は許さない雰囲気漂っているような感じがする。その意味で「生品塾」は今後も続けていきたい。そして、年配の先生の失敗談を気軽に話し、若い先生方の日頃の悩みや不安を解消する一つの手立てになればと考える。
- このような場を作って話をすれば、さらに風通しの良い職場になると思う。お互いの想いが言い合える職場、人間関係になる。
- 昔のように飲み会について行って教えてもらったり、喫煙場所で雑談をしたり、夜、職員室で遅くまで残って話をしたりすることも少なくなり、教えを求める機会が少なくなっているため、良い機会だと思ふ。
- 年齢層にばらつきがあるので、伝えられることがあれば伝えていこうと思う。
- 若い先生方に助けられることも多いので、これからも頑張ろうと思う。
- 今後も若い先生方が『トライ&エラー』を繰り返す姿を温かく見守っていきたい。
- 若い先生方が、具体的にどのような話を聞きたいのか、また困っていることは・・・など、吸い上げられた内容が伝えられると良いと思う。